

これまでの鑑賞の授業では、子どもは音楽を聴いて体を動かしたり、「元気な感じ」「楽しそう」など、感じ取った曲の気分を話したりする活動を経験してきた。それらは、楽曲全体の気分を感じ取ってはいるが、音楽の要素とのかかわり合いを意識したものではなかった。前題材「いいおとをみつけてあそぼう」では、器楽による表現活動を通して、子どもは楽器の音色の面白さに気付き、音色が表している様子を言葉で表現したり、音色の面白さを感じ取って演奏したりしていた。

音楽を聴いて、音楽の要素と音楽が表す様子とを結び付けて、音楽のどこからそのように感じたかを話したり、様子を思い浮かべたりする学習は、本題材が初めてである。

音楽に合わせて体を動かしたり、旋律を歌ったりして楽しんだ学習や、前題材でのいろいろな楽器の音色を比較して演奏した学習の体験を土台に、楽器の音色に着目し、音を根拠に、楽曲を聴いて様子を思い浮かべる経験を積み重ねていく。子どもが、次題材の「みんなであわせよう」における自分たちの表現活動で、本題材での経験を表現の工夫につなげることができるようにしていきたい。

(3) 教材曲について

① 教材選択の観点

音楽の要素と様子を結び付けて音楽を聴く学習に初めて取り組む子どもに、次のような観点から教材曲及び、音源を選定した。

- ・音楽が表している様子が1年生の子どもにとって分かりやすい具体的な表題の音楽であること。
- ・子どもにとって心地よく聴くことができる軽快なテンポの音楽であること。
- ・子どもに親しみのある身近な楽器が活躍していて、その音色が分かりやすく演奏されていること。
- ・子どもが感じ取った場面の様子や聴き取った音楽の要素を確かめることができるようにするため、何度も繰り返して聴くことができるように3分程度で演奏されている曲であること。

② 観点に基づいて選択した教材及び使用音源

ア 教材 ポルカ「雷鳴と電光」(かみなりといなずま) 作曲：ヨハン・シュトラウス2世

イ 使用音源1 CD 使用音源：232577

(指揮：ロベルト・シュトルツ 演奏：ウィーンフィルハーモニー管弦楽団)

- ・一般的には「雷鳴と電光」の名で呼ばれているが、子ども向けの音源や演奏会などでは、「かみなりといなずま」の曲名で紹介されることが多い。
- ・大太鼓、シンバルなどが活躍する軽快なテンポの曲。
- ・A (a a' b b') - B (c c' d d c') - A - c o d a の複合三部形式。
- ・強弱変化をともなった大太鼓のトレモロ奏が多くきこえ、雷のゴロゴロとした音を表している。
- ・大太鼓に呼応するように激しく鳴るシンバルの音色は、稲妻の様子を表している。
- ・大太鼓やシンバルなどの音色を基に雷と稲妻の様子の変化を感じ取ることができる。

ウ 使用音源2 DVD 「ニューイヤー・コンサート 1987」SONY SRBR1303

(指揮：カラヤン 演奏：ウィーンフィルハーモニー管弦楽団)

- ・本教材「雷鳴と電光」をオーケストラで演奏している様子を見ることができ、CDで聴き取った様子を表す楽器の演奏の様子を確認することができる。
- ・大太鼓やシンバルなど、打楽器の演奏の様子が見やすく収録されている。

4 題材の指導の構想

子どもの実態と教材の特性から題材を通して、次のような活動を設定していく。

音色に着目して楽曲を聴く活動

音楽を聴いて様子を思い浮かべることができるようにするためには、手掛かりになる音を聴き取ることが大切である。そこで、この教材曲では、かみなりの様子を表している大太鼓とシンバルの音色に着目して聴かせる。第1時における導入ではまず、題名を知らせず、「お天気に関係した音楽です。どんなお天気でしょうか」と問い掛けた後、楽曲の「はじめ」の部分の聴かせる。子どもは、大太鼓のロール音や小太鼓のロール音などから雨の様子を思い浮かべ、「この音楽のお天気は雨だ」と考える。そこで、「かみなりといなずま」という題名を示し、自由に体を動かして全体を通して聴かせ、どんな音がきこえてきたか問

う。子どもは、楽曲全体から聴き取った「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色について発言する。

次に、子どもが聴き取った「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色を全体で確認する。そのために、「はじめ」（形式上ではA）の部分のみを取り上げて聴かせ、「かみなり」と「いなずま」を表す音色やそれらの音色がきこえる間隔をとらえさせる。さらに、「つづき」（形式上ではB）の部分も「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色に着目して聴かせ、それらの音色がきこえる間隔をとらえさせる。これにより子どもは、「はじめ」の部分との違いに気付き、場面の様子に気付くことができる。その後、気付いた様子を「音のお天気日記」として書かせ、第1時の評価とする。なお、第1時では、「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色に着目して聴き取り、音色と音楽が表す様子と結び付けて聴く活動を「はじめ」「つづき」の部分を中心に進める。楽曲全体を通して聴き味わう活動は第2時を中心に進める。

第2時では、第1時で聴き取った「かみなり」や「いなずま」の様子を表す大太鼓やシンバルがどのように演奏されているか、音色を基に考えさせたり、主旋律を演奏する楽器の音色に着目して聴かせたりする。それを基に楽器の音色の特徴や繰り返しの面白さを感じ取らせ、楽曲全体を味わって聴かせる。

音楽に合わせて体を動かして聴く活動

子どもは、音楽に合わせて体を動かすのを好む一方で、楽曲を集中して全部通して聴くことが難しい。このような子どもの実態を踏まえ、音楽との一体感を味わったり、場面や様子などの具体的なイメージをもったりすることができるよう、音楽に合わせて体を動かす活動を取り入れる。

第1時ではまず、「かみなり」や「いなずま」の様子を表す音色に着目させる。その後、「かみなり」や「いなずま」の様子を表す音が聞こえてきたら動きで表現させる。動きで表現したところから、それを基に「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色が聞こえる間隔をとらえさせ、場面の様子について考えさせる。

第2時の楽曲全体を味わって聴く活動では、「かみなり」と「いなずま」を演奏しているオーケストラの団員になったつもりで、音楽に合わせて演奏のまねをする活動に取り組みせ、音楽との一体感を味わわせる。

感じ取ったことを言葉や視覚で確認する活動

音や音楽は、目に見えないものであるため、子どもが聴き取ったことを共通の経験として、様子を思い浮かべたり発言したりすることは難しい。そこで、子どもが音楽から聴き取ったことを視覚で確認する活動を取り入れる。

第1時では、子どもが聴き取った「かみなり」や「いなずま」の様子を表す音をオノマトペで表現させ、板書に整理して提示する。さらに、体を動かして聴き取ることでとらえた「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色が現れる間隔を「かみなりマーク」と「いなずまマーク」で示して視覚化する。視覚化された音色を根拠に、子どもは、かみなりといなずまの様子に気付いたり、「かみなり」と「いなずまの様子を比較したりさせる。

第2時の大太鼓やシンバルの演奏の様子を考えたり、主旋律を演奏する楽器の音色に気を付けて聴いたりする活動では、旋律を演奏している楽器や大太鼓やシンバルの演奏の様子をDVDで確認させる。演奏の様子を確認し音楽に合わせてまねをすることによって、子どもは音楽との一体感を味わい、音色の特徴や繰り返しの面白さを味わって楽曲全体を聴くことができる。

5 題材の評価規準と学習活動における具体的評価活動

観点	ア 音楽への関心 ・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 歌唱・楽器・音楽づくりの表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価	様子を想像し、進んで音楽を聴いている。	「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色を感じ取り、音		音色の特徴やくり返しの面白さを味わっ

規準		楽が表す様子に気付いて聴いている。		て楽曲を聴いている。
歌唱				
器楽				
音づくり				
鑑賞	○	○		○
具体の評価規準	1 時	「かみなり」や「いなずま」の様子を表す音色に合わせて体を動かして楽しく聴いている。	聴き取った「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色に着目し、音楽が表す「かみなり」と「いなずま」の様子に気付いている。	
	2 時			音色の特徴や繰り返しの面白さを味わって聴いている。

6 指導と評価の計画（全2時間 本時1/2）

時	学習活動	具体的な評価規準・評価方法
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○「かみなり」と「いなずま」の様子を想像し、楽しく聴く。 ・天気の様子を表す音楽であるということをヒントに、様子を想像して聴く。 ・題名を知り、全曲を自由に体を動かして聴き、聴き取った「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色をオノマトペで表現する。 ・「はじめ」の部分を聴いて「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色を聴き取り、音楽に合わせて体を動かして確認する。 ・「つづき」の部分を体を動かして聴き、「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音が現れる間隔をとらえ、音楽に表している様子に気付く。 ・音楽を聴いて気付いた様子を「音のお天気日記」に書く。 	アー【鑑賞】 ・発言・活動の様子の観察 イー【鑑賞】 ・発言・ワークシートの記述
2	<ul style="list-style-type: none"> ○音色や旋律の変化を感じ取り、楽曲を味わって聴く。 ・前時の活動を想起し、「かみなり」と「いなずま」の様子を思い浮かべ、体を動かして聴く。 ・主旋律や大太鼓、シンバルの奏法に気を付けて聴き、同じ旋律や音色がくり返し出てくることに気付く。 ・DVDを見て、楽器の演奏の様子について確認する。 ・オーケストラの団員になったつもりで、音楽に合わせて大太鼓やシンバルを演奏するまねをする。 ・もう一度、楽曲全体を通していろいろな楽器の音色の特徴や響きの面白さを味わって聴く。 	エー【鑑賞】 ・活動の様子の観察 ・ワークシートの記述

7 本時の指導

(1) ねらい

- 「かみなり」や「いなずま」の様子を表す音色に着目して楽曲を聴くことを通して、音色と音楽が表す様子とを結び付け、「かみなり」と「いなずま」の様子に気付くことができる。

(2) 本時の構想

① 本時で目指す子どもの姿

- ◎ 聴き取った「かみなり」や「いなずま」の様子を表す音色に着目し、音楽が表す「かみなり」と「いなずま」の様子に気付いている。
- 「かみなり」と「いなずま」の様子を聴き取った音色のオノマトペを使って「音のお天気日記」に書いている。

② 本時の手立て

【子どもの実態】

・楽曲を聴いて音楽の要素（音色）と音楽が表す様子とを結び付ける経験が少ない子ども。

【教師の働き掛け】

・題名を知らせずに「かみなりといなずま」を聴かせ「お天気の関係した音楽です。どんなお天気でしょうか」と問い、天気の様子を想像させ、どこからそのように感じたか考えさせる。

【促される子どもの反応・音楽的な感覚】

・大太鼓やシンバルの音色や旋律など、楽曲の気分から音楽が表している天気は雨だと予想し、音楽の中からきこえた音や旋律からその理由について発言する。

【学習課題】「かみなりといなずま」をきいてようすをおもいうかべよう。

・題名を知らせ、全曲を通して聴かせる。

・「かみなりといなずま」という題名を確認し音楽の中から「かみなり」と「いなずま」を表す音色をさがす。

・「どんな音がきこえてきましたか」と問い、オノマトペで表現させて「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色に着目させる。

【働き掛け1】

・聴き取った「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音のオノマトペで表し、「かみなり」と「いなずま」をあらわす音色に着目して聴こうとする。

・「はじめ」と「つづき」の場面に分けて聴かせ、「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音がきこえたら体を動かして合図をしましょう」と働き掛け、それぞれの部分を聴かせる。

・「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色を動きで表現して聴き、音色がきこえる間隔をとらえる。

・音色がきこえる間隔を動きで表現させてとらさせた後、『かみなり』と『いなずま』はどんな様子ですか」と問う。

【働き掛け2】

・とらえた音色がきこえる間隔を基に、「かみなり」と「いなずま」の様子に気付き、発言する。

・『音のお天気日記』に今日聴いた音楽の様子を音を表す言葉を使って書きましよう」と働き掛け、ワークシートに「かみなり」と「いなずま」の様子を書かせる。

・聴き取った「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色や、音色がきこえる間隔をとらえたことを基に気付いたかみなりといなずまの様子を「音のお天気日記」に書く。

【子どもは、このようなことをできるようになる】

・鑑賞曲「かみなりといなずま」を聴いて音楽の要素（音色）と音楽が表す様子とを結び付け、音楽が表している「かみなり」と「いなずま」の様子に気付くことができる。

(4) 本時の評価基準

◇アー① 「かみなり」や「いなずま」の様子を表す音に合わせて体を動かして楽しく聴いている。
(音楽への感心・意欲・態度)

【具体的な姿】

- ・ B評価：「かみなり」や「いなずま」の様子を表す音色に合わせて体を動かしている。
- ・ A評価：「かみなり」や「いなずま」の様子を表す音色を見付けて積極的に体を動かしている。

◇イー① 聴き取った「かみなり」と「いなずま」の様子を表す音色に着目し、音楽が表す様子に気付いている。

(音楽的な感受や表現の工夫)

【具体的な姿】

- ・ B評価：「かみなり」と「いなずま」の様子を聴き取った音色のオノマトペを使って「音のお天気日記」に書いている。
- ・ A評価：上記の姿に加え、「かみなり」と「いなずま」の様子が途中で変わったことについての発言や音の「お天気日記」への記述がある。

*記述の具体例については、(3)「本時の展開」に記載。